

富士フイルムVETシステムズ広報誌「ベテビータ」

VETE VITA

〔獣医師インタビュー①〕

犬のがん検診

～血液検査で安心を提供～

01

〔獣医師インタビュー②〕

獣医療における 内視鏡検査について

05

〔スペシャルインタビュー〕

みんなで楽しく
心地よく暮らすために。
まめきちまめこさん



07



USER'S VOICE

犬のがん検診 ～血液検査で 安心を提供～

最新の設備・検査方法を導入するとともに、豊富な知識・経験を備えた獣医師・愛玩動物看護師・スタッフが質の高い獣医療・サービスを提供し、動物の生涯をトータルでサポートする「アルプス動物病院」（群馬県高崎市）。関根敦院長に「Nu.Q® Vet Cancer Test」を導入した理由や、メリットを実感した症例などについてお話を伺った。



アルプス動物病院 院長
関根 敦先生

ご家族さまとの信頼関係の強化にも寄与

初期段階では検出が難しい腫瘍の 早期発見に期待して導入

Q アルプス動物病院の特長は

関根先生 当院は、「思いやり」、「信頼」、「感謝」を理念として掲げ、思いやりを持って接することで信頼関係が強くなり、より多くの感謝が生まれるという考えをスタッフ一同で共有しています。そして、この理念がスタッフの明るさや誠実さ、真摯さとして診療や接遇に現れていることが当院の特長となり、ご家族さまからの支持や評価につながっていると感じています。

医療面では、最新の医療機器や検査等を積極的に導入して、迅速かつ精度の高い診断・治療を実現するとともに、年間の診察件数2万4,000件以上、手術件数800件以上という多くの症例を通して、豊富な経験と知見を蓄積しています。診療対象は犬・猫・ウサギ・フェレット・ハムスター等の小動物で、犬と猫は完全に隔離された病棟で診療を行っています。また、猫については、キャット・フレンドリー・クリニック（CFC）のゴールド認定を取得し、CATvocate認定を持った愛玩動物看護師が在籍しています。

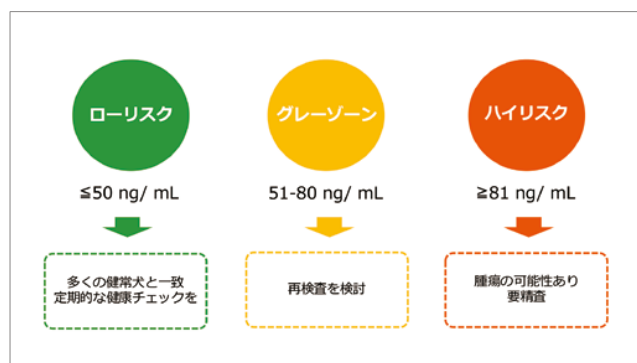
Q Nu.Q® Vet Cancer Testを導入した理由は

関根先生 私は、以前から「信頼性が高く、簡便ながん検査があれば、積極的に導入したい」と考えていました。そうした中で、Nu.Q® Vet Cancer Testのことを知り、初期段階では検出が難しいリンパ腫、血管肉腫、軟部組織肉腫等が血液検査で簡便にスクリーニングできれば、早期発見の可能性が大幅に高まるのではないかと考えました。また、私自身が人間ドックを受ける際は、必ずがんマーカー検査を追加していて、安心感が得られると感じていました。これらの点から、Nu.Q® Vet Cancer Testは、早期発見だけでなく、ご家族さまの安心感や満足感にもつながると考えて導入を決めました。

簡便な検査フローでリスクを検出 CT・エコーに進む際の納得感も得やすい

Q Nu.Q® Vet Cancer Testの簡便性は

関根先生 採血管、依頼書等のツールがよくできているので、検査からご家族さまへの報告までがスムーズに進め



Nu.Q® Vet Cancer Testの結果の解釈

られると感じています。その中で、Nu.Q® Vet Cancer Testで検出感度が高いがんは、獣医師・愛玩動物看護師が日常的に遭遇するもので、それが原因で亡くなっている子もたくさん見えています。Nu.Q® Vet Cancer Testは、そうしたメジャーながんを発見できる検査なので、スタッフも意欲的に取り組んでいるように感じています。

Q 検査コストについては

関根先生 「費用が高いから受けない」という方はあまりいらっしゃらないですね。それよりも「良い検査を受けさせてあげたい」という、意識の高いご家族さまが多いように思います。

Q 検査後の診療の流れは

関根先生 ハイリスク、グレーゾーンの場合は、必ずCTとエコーを提案しています。その際、ご家族さまもそうした次の段階の検査を希望されるので、納得していただいた上で検査が進められると感じています。

なお、ローリスクの場合、獣医師は「無駄な検査をしまして申し訳ない」と思いがちです。しかし、ご家族さま目線言えば、何も見つからないのが一番なので、「安心を提供できた」と考えるべきだと思っています。

新たながん検査として、 さまざまな症例で幅広く活用

Q メリットを感じた症例は

関根先生 【CASE 1】導入後、最初に検査を行った症例は特に印象深いですね。代々ゴールデン・レトリバーを飼われているご家族さまの11歳の子に、がん検診としてNu.Q® Vet Cancer Testを行ったところ、グレーゾーン(71 ng/mL)という結果が出ました。そのため、2週間後の再検査を予定していたのですが、1週間で「指が腫れている」と来院されたので、X線検査を行うと骨肉腫が疑われました。CTを撮影し画像を読影した結果、骨盤や脊椎にも転移が見られ進行した骨肉腫と診断しました。この子は、指の

腫れはあったものの、痛みがなく、跛行も見られなかったので、Nu.Q® Vet Cancer Testを測定していなければ骨肉腫だと分らなかった可能性が高いと思います。また、グレーゾーンという結果が出たことで、ゴールデン・レトリバーのことをよく理解されているご家族さまがいつも以上に注意して観察されていたからこそ、指の腫れに気づけたのではないかと思います。

【CASE 2】8歳のバーニーズ・マウンテン・ドッグで、2年前に軟部組織肉腫の摘出手術をしてから再発が見られない子に、Nu.Q® Vet Cancer Testを行ったところ、グレーゾーンという結果が出ました。この結果が以前の軟部組織肉腫の影響によるものかは分かりませんが、ご家族さまとは「今後も半年に1回、検査をして様子を見ていきましょう」とお話をしています。

【CASE 3】12歳のゴールデン・レトリバーで、来院時に黄疸が出ていて、虚脱していた症例では、肝臓の腫瘍を疑いましたが、エコーをしても診断がつけられず、肝生検も難しい状態でした。そこで、Nu.Q® Vet Cancer Testを選択したところ、ハイリスクの中でも>650 ng/mLという最大の測定値が出たのでがんの可能性が非常に高いと分かりました。この子はそれから1週間後に亡くなってしまったのですが、ご家族さまとしては「原因不明で亡くなった」のではなく、「がんで亡くなった可能性が高い」と分かり、一定の納得が得られたのではないかと思います。



【CASE 1】X線検査にて右前脚第三指に抽出されたマス病変

動物病院自体の価値や イメージの向上にもつながる

Q Nu.Q® Vet Cancer Testのご家族さまへの訴求方法は

関根先生 導入にあたって、検査のポイントをまとめた動画を作成して、当院のSNSアカウントで公開しました。また、待合室でのポスター掲示や健診のDMへの掲載も行っています。これらの取り組みに加えて、獣医師自らが診察室で勧めることも重要だと考えています。

Q Nu.Q® Vet Cancer Testが動物病院にもたらすメリットは

関根先生 犬のがんの早期発見・早期治療に貢献できるのはもちろん、信頼性の高い新たな検査を導入して診療・検査の幅を広げることで、当院自体の価値が高まり、イメージ向上にもつながると感じています。

Q ご家族さまの満足度向上のために取り組んでいることは

関根先生 富士フィルムの製品で言えば、健診を受診していただいたご家族さまへのサービスとして、インスタントカメラのチェキで撮影した写真をプレゼントしています。多忙な業務の中で写真を撮るのは大変だと思いますが、スタッフたちが笑顔で明るく撮影をしてくれていて、ご家族さまからも好評です。

Q 今後、富士フィルムに期待することは

関根先生 当院は、検査や診療の幅をさらに広げていきたいと考えているので、新たな検査や技術の開発に期待しています。その中で、猫のがん検査にも期待しており、特にリンパ腫については血液検査でスクリーニングできれば、細胞診に進む上での大きな後押しになると考えています。



アルプス動物病院(群馬県高崎市)導入機器・システム



- 犬のがんに対する血液検査「Nu.Q® Vet Cancer Test」
- 動物用X線画像診断システム「FUJIFILM DR CALNEO Smart VJ」
- 動物用免疫反応測定装置「富士ドライケム IMMUNO AU10V」
- CT装置
- 超音波画像診断装置



がん検査の院内掲示ポスター

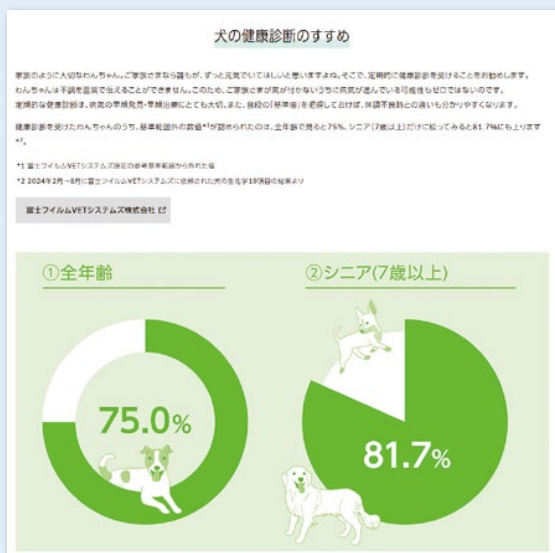
ペットオーナーさま向けサイト OPEN

この度、新しい試みとして「ペットの健康を守り笑顔を増やしたい皆さまへ」と題し、
ペットオーナーさま向けWebサイト「動物と富士フイルム」を公開いたしました。
ここではサイトの一部をご紹介します。

「本サイトはフリーリンクですので、SNSや貴院HPにもぜひご利用ください」

健康診断

✓ 健康診断って何のためにするの？



✓ かかりやすい病気は？



アクセスはこちらから

「今後もコンテンツ追加予定」

動物と富士フイルム

検索



<https://www.fujifilm.com/jp/ja/consumer/pet-healthcare>

犬のがん検査

✓ がんってなに？



✓ がんを見つけるための検査方法は？



獣医療における 内視鏡検査について

日本の動物医療に内視鏡が取り入れられてから四半世紀。近年ではその有用性が広がり、利用する施設も増えている。特に、その黎明期から内視鏡の活用に力を入れてきた日本大学動物病院消化器内科では、年間100件以上の内視鏡症例件数があるという。そこで今回は、内視鏡の普及に長く携わってきた同大学の坂井学先生に、内視鏡の役割や利点などについてお話を伺った。

日本大学 生物資源科学部
獣医消化器病学研究室 教授
アジア獣医内科学専門医(内科)

坂井 学 先生

誤飲の対応から慢性消化器疾患の診断まで、幅広く活用できる内視鏡

画期的だった内視鏡の導入と 犬猫の消化器疾患に対する活用法

Q 経歴と専門分野について

坂井先生 日本大学を卒業後、東京大学で2年間、外科系研修医をしていました。そのとき内科に内視鏡が導入され、動物医療にも利用できることを知りました。開腹せずに検査や異物対応ができることは、非常に画期的だと感じました。

東大での研修医を終えて日大の大学院に戻り、その後、内科医として獣医消化器病学や獣医内科学を専門としています。

Q 内視鏡の役割や、その利点について

坂井先生 動物病院によってさまざまですが、大学付属動物病院のような二次診療施設では、特に内科的な病気、消化管の炎症や腫瘍などの病理学的な診断を目的に内視鏡を活用しています。一昔前は、試験開腹をして消化管の一部を生検していた時代もありますが、現在では内視鏡検査で小さな組織を生検し病理

診断ができ、適切な治療ができるようになりました。内科治療のための手術（開腹）は動物にも負担がかかりますし、飼い主様の同意も得にくい部分でした。しかし内視鏡検査であれば、全身麻酔の必要はあるものの、検査が日帰りでき痛みもないため、飼い主様に受け入れていただきやすいです。

また、診断精度も内視鏡検査で向上させることができます。人の場合、内視鏡検査といえば胃癌や大腸癌などの腫瘍を思い浮かべますが、犬猫の消化管の病気で多いのは炎症やリンパ腫、蛋白漏出性腸症などです。粘膜面に病変があるため、内視鏡下で組織を複数取るほうが、病理診断には有効です。

Q 内視鏡検査を実施する主な疾患は

坂井先生 二次診療施設には、慢性的な嘔吐や下痢で来院する動物が多くいます。そのため、その症状の原因を確定診断する必要があります。もちろん消化管以外の病気も否定していかなければなりませんが、消化管の病気の可能性がある場合は生検が必要です。そこで慢性的な腸炎やリンパ腫が見つければ、必要に応じてステロイドや抗がん剤などを使用していきます。このように二次診療施設では、難治性の疾患に対して、確実な治療をしていくために内視鏡検査を行っています。

一方で一次診療施設では、誤飲が多いと思います。そういう場合、異物のために開腹するよりは、内視鏡を活用するのではないのでしょうか。また、動物医療の進歩によって犬猫に慢性腸炎やリンパ腫、リンパ管拡張症などの病気が多いことがわかってきたため、内視鏡検査を実施する施設も増えています。そうしたことから一次診療では、異物対応から慢性疾患の診断まで、内視鏡の適応が増えていると思います。



難治性の嘔吐や下痢の原因をより正確に把握するために

Q 日本大学でよくある症例は

坂井先生 慢性の嘔吐や下痢、低アルブミン血症などで、既に一次診療で内視鏡検査を受けて治療しているけれど、なかなか治らない動物も多く来院します。そのような動物では、当院では必ずもう一度、内視鏡検査を行います。CT検査を組み合わせることで病態をより正確に把握するようにしています。

ときには一次診療の診断と二次診療の診断が乖離することもあります。これは、いくら内視鏡を入れる技術に長けていても、見るだけでは診断できないケースがあるためです。例えば生検鉗子で組織を取る際、1、2カ所では正確な診断はできません。そのため当院ではガイドラインに基づいて、胃で6個、小腸の入口で6個、さらに奥で6個と最低でも18個以上の組織を採取します。さらにサンプルをろ紙に正確に貼り付けて病理検査に出しています。病理医が評価するのに適したサンプルを提出することが重要であり、サンプルの数が少なかったり、固定の仕方が悪かったりすると、診断結果が乖離してしまいます。人手や時間の問題、“検査だから”という安易な考えで内視鏡検査を行うと診断が甘くなる可能性があるため、常に意識をもって取り組んでいます。

Q 内視鏡検査を提案する際の

飼い主様に対するコミュニケーションの工夫は

坂井先生 誤飲などの異物対応は急性の状態なので、問診やX線検査を通じて内視鏡を入れるのは必要な対応です。一方で、昨日急に吐いたからといって、すぐに内視鏡検査にはなりません。まずは対症療法や食事療法をして、経過を見ていきます。

しかし、それでも反応しない場合や、嘔吐の回数が増えてきた場合には、どこかの段階で内視鏡検査をしないと原因の判断ができません。腎臓病でも肝臓病でも嘔吐はするため、鑑別診断をして消化管が問題と判断すれば、内視鏡検査を提案する必要があります。吐いているから内視鏡検査をするのではなく、症状が治らないから検査をするわけです。飼い主様が納得できるような筋道を立てた上で、内視鏡検査の必要性を説明し、適切な治療を提供することが大切です。

内視鏡の新技术をどう活かすか 産学共同でさらなる研究を

Q 内視鏡の機能について

坂井先生 例えば胃に出血があったとき、特殊光観察※に変更すると病変だけではなく周りもより鮮明に見えます。小腸のリンパ管拡張症についても、リンパ管は白色光でも白く確認できますが、変更することでより強調されて見えるようになります。

治療に対して積極的に介入いただくためには、飼い主様に納得していただくことが大事です。しかし、X線、超音波、CTは白と黒の世界なので伝わりづらい一面があります。その点、内視鏡のように肉眼的な画像であれば視覚的に理解することができます。さらに、色を変更して強調することができるので、病変を

説明しやすくなるメリットもあります。

画像強調にはこうした利点はありますが、炎症を見つけやすくなるかどうかは、判断が難しいところ。この機能は、人の腫瘍の発見には有用です。しかし動物の場合、大腸癌や胃腺癌などはかなり進行してから見つかることが多いので、画像強調しなくても肉眼で確認ができます。また、慢性腸炎からリンパ腫への移行も、今のところ内視鏡の見え方で判断はできません。そのため現段階では、内視鏡以外に超音波やCTなどを組み合わせて病気を診断し治療法を見つけていくほうが、犬猫の消化器疾患に対しては現実的といえるかもしれません。



胃点状出血「白色光」



胃点状出血「画像強調内視鏡技術」



リンパ管拡張症「白色光」



リンパ管拡張症「画像強調内視鏡技術」

Q 動物医療用内視鏡の今後の発展について

坂井先生 この25年で、内視鏡はずいぶん発展してきました。画質だけを取っても、相当良くなったと思います。動物に対し安全に適切な検査や処置が実践できる動物用の内視鏡を使って、獣医師が正しい扱い方を身につけることが大切です。

今後、動物医療用の内視鏡をさらに発展させていくためには、新しい機能や技術が動物医療にどう活かせるかを研究すること、同時に、現在の動物医療に合ったガイドラインをアップデートすることが必要です。日本の内視鏡技術は世界でも最先端を行っていると思うので、産学が連携して研究を進めていくことが重要だと思います。



日本大学動物病院
(神奈川県藤沢市)

※画像強調内視鏡技術

みんなで楽しく 心地よく暮らすために。

かわいいイラストとユニークな眼差しで愛猫との暮らしを綴ったブログ「まめきちまめこニートの日常」が大人気のまめきちまめこさん。長年連れ添った犬のこまちと猫のシンバを見送り、現在、メロとタビ、2匹の猫と暮らしています。猫たちとの暮らしや健康管理について伺いました。

ブロガー、漫画家
まめきちまめこさん

健康診断は“今の安心”と“これからの暮らし”を守る大切な習慣

偶然から始まった、かけがえのない日々。

Q ブログやSNSで描かれるメロくんとタビちゃんともめこさんの暮らしが人気ですが、改めて最近の活動と現在飼っているペットについて教えてください。

まめきちまめこさん 2015年から「まめきちまめこニートの日常」というブログで漫画を描いています。今年3月には「メロとタビのクッキーだいさくせん」という絵本も出版しました。今は5歳のメロと7歳のタビという2匹の猫と暮らしていますが、過去にはゴールデン・レトリバーのこまちと猫のシンバと一緒に過ごしていました。

Q タビちゃん、メロくんは保護猫だったということですが、どのようにして2匹と出会ったのか教えていただけますか？

まめきちまめこさん 駐車場に停まっていた車のボンネットから小さい猫がひょっこり出てきたんです。それがタビとの出会いでした。一緒にタビを救出してくれた人たちが誰も保護できないということで、うちで引き取ることにしました。まだ生まれたばかりですごく小さかったのに、目がこぼれ落ちそうなくらい大きくて！うるうる見つめてきて、本当に可愛かったんですね。

メロは近所のショッピングセンターの周りをうろろしているところを見つけたのが出会いでした。ちいさい鳴きながら歩いているところを保護して、メロンの箱に入れて連れて帰ったので「メロ」です。2022年に亡くなったシンバも道路で迷っているところを保護した子で、うちの子たちはみんな偶然と縁が重なって出会ってきたような気がします。

Q ブログでも個性豊かな2匹の暮らしぶりが描かれていますが、それぞれの性格を教えてください。

まめきちまめこさん タビは本当に繊細な性格で、むずかしい猫なんです。都合のいいときだけ急に甘えてきたり、かと思ったら「ニャ！」と文句を言いながら駆け出していったり。でもそんなところも憎めなくて可愛いんですよね。メロは常に食べ物のことばかり考えている食いしん坊。フライドポテトが大好きで、食べていると匂いにつられて必ず寄ってきます。どんな人にも怒らない優しい性格ですが、ごはんのことになるとスイッチが入ったように性格が変わります。



タビちゃん



Q ふだん2匹とはどんな時間を過ごしていますか？

まめきちまめこさん なんだか猫たちは家族というよりは、同居人という感じがして。私が「守ってあげなきゃ!」という感覚があまりないタイプということもあり、対等な存在として暮らしている感じなんですよね(笑)。

ただ、こまちはもう少し家族という感覚が強かった気がします。特に亡くなる直前は「なんとかして私がこまちを守らなきゃ」みたいな気持ちがすごくありました。もちろん猫たちのお世話はきちんとしていますし、かけがえのない存在です。でも、彼らとはいい距離感で、お互い干渉しすぎずに過ごしていると思います。漫画や絵を描いていると、よくキーボードや紙の上に乗ってきて邪魔されますが、たぶん本人たちは邪魔しているという意識すらないんだろうな〜と、微笑ましく見ています(笑)。

変化に気づけることが、いちばんの安心。

Q 漫画ではこまちちゃんやメロくんが健康診断に行く様子が描かれていますが、健康診断は定期的に行かれていますでしょうか?どれくらいの頻度で、どのような検査を受けていますか?

まめきちまめこさん メロは健康診断で中性脂肪の数値が異常に高いことがわかったので、2ヶ月に一回、健康診断をしていた時期もありました。今はサプリの効果が少しずつ出てきて、数値も落ち着きはじめていますので、半年に一度くらいで検査をするようにしています。

タビは体が細いのですが、すごく健康なので、健康診断は年に一回くらいのペースです。こまちも病気になる前は一年に一回でした。お世話になっている動物病院に触診が上手な先生がいて、その方は触るだけで体の悪いところを見つけてくれるのでとても信頼しています。その先生に見てもらうこともありますが、一年に一度はいろいろな項目の数値がわかるような健診を受けるようにしています。

Q 健康診断を重要だと思うようになったきっかけを教えてください。

まめきちまめこさん 姉の飼っていた猫が心臓病だったこともあり、健康診断や定期検査の大切さは認識していました。だから健康診断に行くことは特別なことではなく、自然と年に一度の習慣になっていました。

2022年末に亡くなったこまちは、12月にエコー健診で十二指腸へのがんの転移が発覚し、その年末に旅立ちました。病気の進行が本当に早いことをあのとき改めて実感しました。やっぱり定期的な健康診断は大切。常に体調はチェックしておいたほうがいいな……と。特に病気をしたことがあったり、高齢だとなおさらですね。

そういえば犬のがんに対する血液検査「Nu.Q® Vet Cancer Test」が登場したんですよね?すごくいいですよね!こまちは、病気がかなり進行してから見つかったので、血液で早期にわかるのは本当にありがたいです。猫用も出てくれたら…と心から願っています!

Q ペットの健康診断において、特に印象に残っているエピソードがあれば教えてください。

まめきちまめこさん 私自身が注射で血液を抜かれるのが苦手



こまちちゃん



シンバちゃん

で、自分の健康診断も避けがちで(笑)。なので、健康診断で猫たちが採血されるときは、いつも「痛いよね…怖いよね…」と、自分のことのようにドキドキしながら見ています。以前、健康診断のときに看護師さんがメロを我が子のように優しく抱きしめてくれたことがあって。飼い主が入る隙がないくらいの包容力で(笑)。見ているこちらですごく安心できたということがありました。犬や猫たちにストレスが少ないような検査を意識してくれてすごくありがたかったです。

そういえば、メロの検査をしてくれた先生は、ふだんすごくほのぼのとしたタイプの先生なのですが、中性脂肪の数値が下がったときに一緒に喜んでくれて。そのときは「こんなに寄り添ってくれる人がいるんだ」とうれしくなりましたね。

Q 健康診断を受診するときに意識していること、気にしていることはありますか?

まめきちまめこさん 猫によっては、外に出ること自体が大きなストレスになることもあるので、いくら健康のためとはいえ、病院に行きすぎてもストレスになるだろうな……と。猫たちの通院用のバッグは、いつでも入れるように常に部屋に出しておいて、隠れ家や寝床として使えるようにもしているのですが、それでも背負った瞬間には「ニャー!」と鳴き声が聞こえてきます(笑)。

こまちは割と喜んでついてきてくれたんですけどね。それぞれ性格も健康状態も違うので、負担をかけすぎない“ちょうどいい頻度”を探しながら通院しています。

Q 過去に動物病院で受けた健康診断の出検先がたまたま富士フィルムVETシステムズだったそうですね。

まめきちまめこさん そうなんです!メロの内臓脂肪の数値がわかった検査結果のシートを見ていたら、「富士フィルムVETシステムズ」と書いてありました!

メロがうちに来てすぐの頃に病院内でできる簡易的な検査は受けていたのですが、一歳半くらいのタイミングでより詳しい検査を試みようとしてみたら「猫でこの数値は見たことがない……」と先生もびっくりするくらいの結果で(笑)。念のためもう一度検査しても同じ結果だったので、すぐにサプリを処方してもらって、今も経過観察を続けています。あのとき気づけたおかげで、早く対処できたのは本当に良かったなと思っています。

ちょうどいい暮らしを、 猫たちと一緒に見つけていきたい

ストイックになりすぎず、 “うれしい”も大切に。

Q 日常の中でどのようにペットの健康管理をされていますか？
食事やケア、生活習慣などで意識していることがあれば教えてください。

まめきちまめこさん 食事は通っている病院で先生がおすすめしてくれるペットフードを選ぶことが多いですね。ただ、タビがすごい偏食で……味の濃い子猫用のフードしか食べてくなくて(笑)。体が細いからたくさん食べてもらいたいんですけど……。好みに合いそうなフードをいくつか混ぜて、サプリも取り入れつつ調整しています。

あとは、ストレスがたまらないように、家のドアは基本すべて開けておいて、好きな場所に自由に行けるようにしています。毎日廊下をダッシュしているので、ちょっとした運動にもなっているはず。そういうことも健康維持につながっていたらいいな～と思っています。

Q 長く一緒に暮らしていたこまちちゃんとシンパちゃんを送って、今はタビちゃんメロくんと仲良く暮らされていますが、ペットの健康管理の考え方や向き合い方に変化はありましたか？

まめきちまめこさん こまちが脳腫瘍になったとき、「やれることを全部やりたい」という気持ちが強すぎて食事を手作りしたこともありました。抗がん作用があると聞いてきのこスープかけごはんとかを食べさせていたんですけど、食べている様子が全然美味しそうじゃなくて……。それ以降も再発が怖くて、フルーツとか甘いものはあげないようにしていましたが、今思えば、「もう少し食べたいものを食べさせてあげてもよかったのかな」と思うこともあります。

メロは今、体調管理のために一日三回のごはんのうち一回だけ“トロトロ飯”を食べられるんですけど、それを本当に美味しく食べるんですよ。健康ももちろん大事ですが、好きなものを食べることもストレスを減らすことにつながるんじゃないかと思うようになり、最近はあまりストイックにならないように心がけています。



すてきな作品が創り出される空間

Q ペットとの絆を深めるために大切だと思うことはありますか？

まめきちまめこさん とにかく「かわいい！」っていつも思っています(笑)。その「かわいい！」という気持ちが、漫画や絵本を描く原動力にもなっています。かわいくて大好きですけど、程よい距離感でお互いストレスがないように過ごそうということも考えているかもしれません。性格が違う2匹なので、それぞれのペースに合わせながら暮らしています。

Q 今後の活動の予定ややってみたいことはありますか？

まめきちまめこさん 原画展や絵本の出版も控えているので、ぜひそちらも楽しみにしてください！やりたいことは…、本当は大きな一軒家に暮らしたいんですよ。猫や犬がのびのび走り回れるような。今の家だとこれ以上増やせないのも、もし大きな一軒家だったらもっとたくさんの猫と犬と暮らせるのになあ、と夢を描いています(笑)。

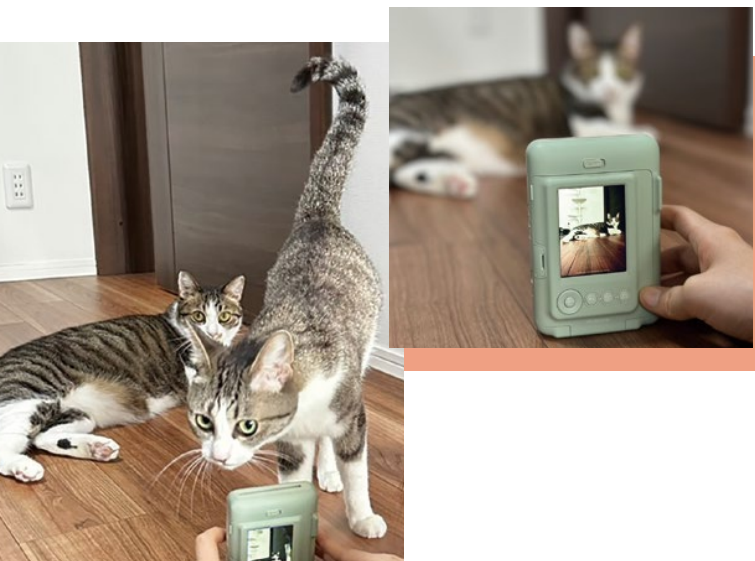
Q 獣医師さんとのエピソードも漫画に描かれていますが、いつもペットの健康を守ってくれている獣医師の方々へ伝えたいメッセージがあれば教えてください。

まめきちまめこさん お世話になっている先生たちのことを書かせていただいているので、バレていないかな…？とドキドキしているのですが(笑)。いつも本当にありがとうございますという気持ちでいっぱいです。ペットたちの些細な変化に気づいてくれたり、病気になったときに寄り添ってくれたりする獣医師さんがいることで安心してペットとの生活を過ごすことができます！

profile

まめきちまめこさん

愛知県名古屋市在住のブロガー。ライブドアブログで「まめきちまめこ ニートの日常」を掲載中。2022年、マンガがフジテレビ系列「ポップUP!」にてアニメ化。著書に『まめきちまめこニートの日常 こまちとタビ』シリーズ、絵本『メロとタビのクッキーだいさくせん』がある。



玉本 隆司 先生 ありがとう

心からの感謝と敬意を込めて

大学時代の主要な研究テーマは「炎症マーカーの臨床活用」で、特に猫の炎症マーカーであるSAAの臨床応用や基礎研究を精力的に行い、弊社入社後は新規検査の基礎検討やコラムの執筆活動に励み、多くの功績を残されました。

執筆コラム

精確を込めた「SAA」シリーズや
「検査のキホンの“キ”」シリーズ他



獣医師、獣医学博士
故 玉本 隆司

恩師からの追悼メッセージ

玉本隆司先生は学部卒業後に開業動物病院で勤務した後、大学院生として私どもの教室にカムバックされました。臨床経験を積んだ上での研究はすぐに軌道に乗り、たくさんの研究成果を挙げられました。玉本先生がPublishされた論文は英文国際誌に掲載されていますので、彼の動物の病気に対する慧眼はこれからも世界の獣医師に高く評価されることでしょう。心からご冥福をお祈り申し上げます。

日本動物高度医療センター(JARMeC)
川崎本院 血液内科 科長 辻本 元 先生

玉本隆司先生のご訃報に接し心から哀悼の意を捧げます。東京大学の17年後輩であり、隣の研究室（獣医内科）の学生さんでした。大学院時代に炎症マーカーの研究に没頭され、個々の患者の治療経過を深く読み込んでいた姿は強く印象に残っています。先生が遺した文章は我々生き残りが後世に伝えます。どうぞ安らかに休息ください。

まつき動物病院 院長 松木 直章 先生

玉本君

まさか、僕より先に逝くとは思っておりませんでした。未だに信じられない思いです。東大時代、あなたが学部生から大学院までの長い間、指導教員として一緒に猫の炎症マーカーの仕事をしましたね。猫のSAAは獣医界にとってもその後のあなたのキャリアにとっても素晴らしい研究となりましたね。二人で一緒にハンガリーまで国際学会に発表にも行きました。常に冷静かつ飄々と、物事をみつめていた玉本君が懐かしいです。私と同じように大学を出て第二の人生を始められて、これからという時に、本当に残念で、寂しい限りです。心からご冥福をお祈りいたします。

動物医療センターPeco 院長 大野 耕一 先生

検査案内 電子BOOK版のご案内

弊社では、情報のデジタル化やペーパーレス化を推進しております。
この度、検査案内を電子BOOK形式でご利用いただけるようになりました。

電子BOOK版では、以下の情報を限定公開しています

- ✓ 採材方法、提出方法、依頼書の記入ポイント
- ✓ 出検前に知っておきたい基礎知識
- ✓ 血液塗抹ガイド

本サービスをご希望のお客様は、こちらの
QRコードをスキャンしてダウンロードしてください

＼CHECK／

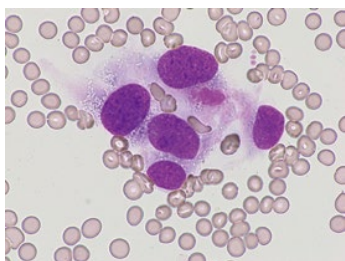


病理診断の
現場から

社内診断医の あれ!?!この症例 - 犬の後腹膜血管肉腫 -

経過

犬、雑種、13歳、去勢雄。右腎より尾側の後腹膜腔に1.5cm大の腫瘤あり。FNAを行ったところ、多量の血液とともに写真のような細胞が少数観察された。



評価

異型間葉系細胞の採取(血管肉腫の疑い)

細胞診では少数ながら強い異型性を示す間葉系細胞が観察され、肉腫の可能性を示唆する所見です。また、豊富な血液の存在や発生部位を考慮すると、血管肉腫が鑑別の第一に挙げられます。本例はその後の腫瘤の摘出・病理組織検査により、血管肉腫と確定診断されました。

犬の血管肉腫の好発部位は脾臓であり、他には右心房や肝臓、皮膚/皮下組織での発生も見られますが、後腹膜に原発する血管肉腫にも時々遭遇します。

後腹膜原発の血管肉腫は、脾臓の血管肉腫と比較すると術後の中央生存期間(MST)がやや長いとする報告(Vet Med Sci. 2024 Jul;10(4):e1495)がありますが、それでもMSTは175日であり、再発や遠隔転移も多く、アグレッシブな挙動を示す腫瘍です。

富士フイルムVETシステムズ(株) 形態学診断医 原田知享

FUJIFILM

富士フイルムVETシステムズ株式会社
〒181-0013
東京都三鷹市下連雀3-35-1 ネオ・シティ三鷹12F
Tel: 0422-26-7129

過去に公開された
診断医コラムは
こちら▶



Webからの
お問い合わせは
こちら▶

